

メッセージ 3

ペテロの手紙における命と建造

聖書：Ⅰ ペテロ 1:8, 2:1-5, 9, Ⅱ ペテロ 1:3-4

命 種(再生) 乳(成長) 生ける石 (造り換え)	Ⅰ ペテロ 1:23、あなたがたが 再生 されたのは、朽ちる種からではなく、 朽ちない種 から、すなわち、生きていて 存続する 、 神の言 によるのです。 2:2、生まれたばかりの 赤子 のように、 悪巧みのない言葉の乳 を切に慕い求めなさい。それによって、あなたがたが 成長 して救いへと至るためです。 2:4、人には捨てられたが、神には選ばれた尊い 生ける石 である主に来て、
建造 霊の家 祭司の体系	Ⅰ ペテロ 2:5、あなたがた自身も 生ける石 として、 霊の家に建造 されていきながら、 聖なる祭司の体系 となって、イエス・キリストを通して、神に受け入れられる霊のいけにえをささげなさい。 2:9、しかし、あなたがたは 選ばれた種族 、 王なる祭司の体系 、 聖なる国(民) 、 所有として獲得された民 です。それは、あなたがたを暗やみから、驚くべき光の中へ召してくださった方の美德を、あなたがたが告げ知らせるためです。

ペテロの手紙	Ⅰ	ペテロの手紙と全聖書の 中心思想 は、命と建造です	A	全聖書の命と建造
			B	ペテロの手紙の命と建造
	Ⅱ	神の 目標 は、生ける石で建造された霊の家を持つことです	A	神の建造のための命としてのキリスト
			B	ペテロの命と建造の経験
命と建造	Ⅲ	神の建造のための 命における成長	C	わたしたちの命と建造の経験
			A	命の成長の道(愛、霊、心)
			B	命の成長を妨げる四つ障害 (キリストを命としない、偽善、反逆、天然の能力)
			C	命の成長において捨て去るべき五つの事柄(悪意、悪巧み、偽善、ねたみ、悪口)
	Ⅳ	建造は霊の家のためであり、それは祭司の体系の奉仕です	D	命の成長のためには、神の悪巧みのない言葉の乳で養われる必要がある
			A	団体的な祭司の体系
			B	団体的な祭司のの体系の奉仕 (告げ知らせる、いけにえをささげる)
			C	祭司の奉仕は「測りなわの神」を源としていなければならない

ペテロの手紙と全聖書の中心思想は、命と建造です

Ⅰ. ペテロの手紙と全聖書の**中心思想**は、命と建造です——Ⅰ ペテロ 1:23, 2:2-5, Ⅱ ペテロ 1:3-4:

*全聖書の中の命と建造

- A. **命とは**、キリストの中に具体化され、その霊として実際化された三一の神が、ご自身をわたしたちの中へと分与して、わたしたちの**享受となる**ことです。
建造とは、召会、キリストのからだ、神の霊の家であり、それは神の拡大また拡張であって、神を団体的に**表現します**——創 2:8-9, 22, マタイ 16:18, コロサイ 2:19, エペソ 4:16。

*ペテロの手紙の中の命と建造

- B. **命**: キリストは命の種として、わたしたちの内側の命の力です。この力は、**命**と敬虔にかかわるすべての事柄を、わたしたちにすでに**与えて**います。それは**命の成長と発展**を通して、
建造: 召会を**建造**し、命の豊富な余剰、また命の**表現**となるためです——Ⅱ ペテロ 1:3-4, 参照、使徒 3:15, 詩歌 154 番 4 節。

神の目標は、生ける石で建造された霊の家を持つことです

II. **神の目標**は、生ける石で建造された霊の家を持つことです—— I ペテロ 2:5:

*** 神の建造のための命としてのキリスト**

命としてのキリストは: **朽ちない種**

神の建造のためのキリストは: **生ける石**

A. わたしたちの**命**として、キリストは**朽ちない種**です。**神の建造のために**、彼は**生ける石**です——1:23. 2:4。

*** ペテロの命と建造の経験について**

B. **ペテロ**の悔い改めの時、主は彼に、ペテロ、すなわち石という新しい名を与えました(ヨハネ 1:42)。ペテロがキリストに関する啓示を受けたとき、主はさらに、ご自身が岩、すなわち石であることを啓示しました(マタイ 16:18)。この二つの出来事によって、**ペテロは、キリストと彼の信者たちが神の建造のための生ける石である**という印象を受けました(I ペテロ 2:4-8. 使徒 4:11. イザヤ 28:16. ゼカリヤ 4:7)。

*** わたしたちの命と建造の経験について**

C. **わたしたち**、キリストにある信者は、再生と造り変えを通して、キリストの複製としての生ける石となります。わたしたちは**土くれから創造されましたが(ローマ 9:21)、再生の時、神聖な命の種を受けました**。その種はわたしたちの中で**成長することによって、わたしたちを造り変えて生ける石とします**(I ペテロ 2:5)。

建造のために命が成長する道と障害について

III. **神の建造は生きているので、成長します**。**神の家としての召会を真に建造すること**は、信者たちの命における**成長**によります——エペソ 2:21:

*** 建造のために命が成長する道——主を愛し、わたしたちの霊に注意し、心を見守る**

A. 神の建造のために命において成長しようとするなら、わたしたちは**主を愛し**、わたしたちの**霊に注意し**、何ものにもまさせてわたしたちの**心を見守って**、**命の道**にとどまらなければなりません——I ペテロ 1:8. 2:2, 5. 3:4, 15. 箴 4:18-23. 申 10:12. マルコ 12:30。

*** 命の成長を妨げる四つ障害が取り除かれる**

—命の道知らない(キリストを命としない)、偽善、反逆、天然の能力

B. **キリストの命がわたしたちの中で妨げられないことを願うなら**、わたしたちは十字架の砕き、すなわち、栄光の霊としてのキリストのすべてを含む霊の中の、キリストの殺す死を経験しなければなりません。それによって、わたしたちの中の以下の**障害は対処され、取り除かれることができます**——I ペテロ 1:11. 4:14. 詩 139:23-24:

1-4 (四つの障害が取り除かれる必要がある)

1. **クリスチャンであるとは、キリスト以外の何ものも、わたしたちの目標としないことを意味します**。この事に対する障害は、**命の道を知らず、キリストをわたしたちの命としない**ことです——マタイ 7:13-14. ピリピ 3:8-14. コロサイ 3:4. ローマ 8:28-29。

偽善: 人の霊は外側の現れによって決定されるのではなく、

2. 第二の障害は**偽善**です。**人の霊性が決定されるのは、外側の現れによってではなく、いかにキリストに注意を払うかによってです**——マタイ 6:1-6. 15:7-8. ヨハネ 5:44. 12:42-43. 参照、ヨシュア 7:21。

3. 第三の障害は**反逆**です。わたしたちは**事を行なうことにとっても積極的で熱心であっても、わたしたちの内側の生けるキリストを軽視することによって、なおも彼を監禁し、不従順であるかもしれません**——レビ 14:9, 14-18. 11:1-2, 46-47. ローマ 16:17. I コリント 15:33。

4. 第四の障害は、わたしたちの**天然の能力**です。もしこれらの天然の能力がわたしたちの中で砕かれないうままであるなら、キリストの命にとって問題となります——2:14-15. 3:12, 16-17. ユダ 19 節. 参照、レビ 10:1-2。

*** 命の成長において捨て去るべき五つの事柄(悪意、悪巧み、偽善、ねたみ、悪口)**

C. 神の建造のために**命において成長しようとするなら**、わたしたちは、**「すべての悪意と、**

すべての悪巧みと偽善とねたみと、すべての悪口とを捨て去らなければなりません
—— I ペテロ 2:1。

***命の成長のためには、神の悪巧みのない言葉の乳で養われなければならない**

D. 神の建造のために命において成長しようとするなら、わたしたちは神の悪巧みのない言葉の乳で養われなければなりません—— I ペテロ 2:2:

1. 悪巧みのない乳は、神の言葉の中で伝達されて、わたしたちの理性のある思いの理解を通してわたしたちの内なる人を養い、わたしたちの知性の機能によって吸収されます——ローマ 8:6。参照、申 11:18。
2. 言葉の養う乳は、思いを通して魂のためですが、それは最終的に、霊を養い、わたしたちを魂的ではなく霊的にし、神の霊の家として建造されるように適合させます——参照、I コリント 2:15。
3. 言葉の乳を享受し、神と言葉の中の彼の良きことを味わうために、わたしたちはすべての祈りによって彼の言葉を受け取って、彼の言葉を思い巡らさなければなりません——I ペテロ 2:3。エペソ 6:17-18。詩 119:15, 23, 48, 78, 99, 148:
 - a. 言葉を思い巡らすとは、注意深く考察することによってそれを味わい、享受することです——I ペテロ 2:2-3。詩 119:103。
 - b. 祈りも、自らに語ることも、主を賛美することも、言葉を思い巡らすことに含まれます。言葉を思い巡らすことは、「反芻する」こと、多くの再考慮を通して、神の言葉を受け取ることです——レビ 11:3。
4. 言葉の中の養う乳としてのキリストで養われることによって、わたしたちは成長して完全な救いへと至り、造り変えを通して円熟へと至り、栄光化されます。I ペテロ第2章2節の救いは、神の建造のための造り変えの事柄です。
5. わたしたちは、わたしたちを養う「乳・キリスト」を享受し、「石・キリスト」としての彼をもって造り変えられ、「からだ・キリスト」として、神の霊の家として建造されて、聖なる祭司の体系となります——2-4節。I コリント 12:12-13。

神の住まいのための霊の家を建造することと、神に仕えるための祭司の体系

IV. 聖なる祭司の体系、すなわち組み合わされた祭司団は、建造された霊の家です。神は彼の住まいのための霊の家と、彼に仕えるための祭司団、すなわち団体の祭司の体系を求めています——I ペテロ 2:5。出 19:5-6:

***霊の家と聖なる祭司の体系**

建造される必要がある: 種族(神を源とする)、祭司の体系(神に仕える)、聖なる国(神のため)、民(神にとって尊いもの)、これら四つは集合名詞で、団体的であることを意味しています。ですからわたしたちは共に建造される必要があります。

A. わたしたちは、「選ばれた種族、王なる祭司の体系、聖なる国民、所有として獲得された民です」(I ペテロ 2:9)。「選ばれた種族」は、わたしたちが神を源とすることを意味し、「王なる祭司の体系」は、わたしたちが神に仕えることを意味し、「聖なる国民」は、わたしたちが神のための共同体であることを意味し、「所有として獲得された民」は、わたしたちが神にとって尊いことを意味します。

***霊的のいけにえをささげる—(キリスト、罪人、体、賛美、神のために行なうことを)**

***告げ知らせる—(暗やみから、驚くべき光の中へ召してくださった方の美德を)**

B. わたしたちの団体的な祭司の奉仕は、わたしたちを暗やみから、驚くべき光の中へ召してくださった方の美德を福音として告げ知らせることです(9節)。それによって、わたしたちは「イエス・キリストを通して、神に受け入れられる霊のいけにえをささげ」ます(5節後半)。この霊のいけにえは以下のものです:

1. 旧約の予表のすべてのいけにえの実際であるキリスト。全焼のささげ物、穀物のささげ物、平安のささげ物、罪のためのささげ物、違犯のためのささげ物などです——レビ第1章—第5章。
2. わたしたちが福音を宣べ伝えることによって救われた、キリストの肢体としてささげられた罪人——ローマ 15:16。
3. わたしたちの体、わたしたちの賛美、わたしたちが神のために行なう事——12:1。ヘブル 13:15-16。ピリピ 4:18。

***祭司の奉仕はすべて、「測りなわの神」としての彼を源としていなければならない**

C. わたしたちの主に対する祭司の奉仕はすべて、「測りなわの神」としての彼を源としていなければならない、わたしたち自身からであってはなりません。わたしたちの祭司の奉仕はすべて、彼の導きと彼の制限にしたがっており、彼の死をわたしたちの内側で働かせなければなりません。それによって、彼の復活の命はわたしたちを通して、他の人の中へと分け与えられることができます——Ⅱコリント 10:13, ヨハネ 12:24, 21:15-

22. サムエル下 7:18, 25, 27. ルカ 1:37-38. 詩歌 650 番。

***召会の中で奉仕し、命を他の人に分け与えることを学ぶ必要があります、**

第 6 日目(朝ごとの食物より)

「わたしたちが主の殺しの下にあるとき、彼の復活の命は、わたしたちを通して人に分け与られます。人に命が分け与えられるのは、常にわたしたちが十字架の殺しを経験したことの結果です。」

「わたしは若い人たちが特に御言のこの部分を学び、召会の奉仕の中で、どのように振る舞うか、また主の回復の中でどのように行動するかを、それから学ぶように励まします。」

朝ごとの食物 (第 5 日目より)

召会生活の中の団体的な奉仕

ペテロは……「霊の家」と「聖なる祭司の体系」という用語を用いて、召会生活を示しています。個人的な方法での霊の生活ではなく、団体的な方法での霊の生活が、神の定められた御旨を完成し、神の願いを満たすことができます。神は彼の住まいのための霊の家、彼に仕えるための祭司団、すなわち祭司の体系を求めておられます。……この奉仕は、霊の命の三つの極めて重要な段階から出て来ます。それは再生、キリストで養われ成長する、共に建造されることです。



まとめ

言葉の乳を切に慕い求め、命を成長させ、
生ける石となり、共に建造され、
祭司の体系となり、組み合わせられて奉仕する

第三週 ペテロの手紙における命と建造				
日	段落	構成(流れ)	主題	要点
1	ペテロの手紙	中心思想	ペテロの手紙と全聖書の中心思想は、命と建造です	全聖書における命と建造
2		目標	神の目標は、生ける石で建造された霊の家を持つことです	ペテロの手紙における命と建造
3	命	成長の道 四つの障害	神の建造のための命における成長の道と障害	神の建造のための命としてのキリスト
4		成長のため捨て去るべき五つの事柄 言葉の乳を切に慕い求める	命の成長において捨て去るべき五つの事柄と言葉の乳を切に慕い求めること	ペテロとわたしたちの命と建造の経験
5	建造	霊の家 祭司の体系	建造は霊の家のためであり、それは祭司の体系の奉仕です	命の成長の道(愛、霊、心)
6		「測りなわの神」	祭司の奉仕は「測りなわの神」を源とすべきです	命の成長を妨げる四つ障害 (キリストを命としない、偽善、反逆、天然の能力)
				命の成長において捨て去るべき五つの事柄 (悪意、悪巧み、偽善、ねたみ、悪口)
				命の成長のためには、神の悪巧みのない言葉の乳で養われる必要がある
				霊の家は、聖なる祭司の体系です
				祭司の体系の奉仕
				祭司の奉仕は神の制限と導きによる
				召会の中で人に命を分与することを学ぶ